

# フツウ・ノイエ

設計: アカサカシンイチロウアトリエ

## 心地良い複雑さを内包する 単純な形態

赤坂真一郎 | Shinichiro Akasaka

大都市の利便性と深い自然の豊かさとの間を、こんなにも短時間で行き来できるまちは日本において札幌以外にないだろう。191万人が暮らす札幌の中心部からわずか20分ほど車を走らせると、国の天然記念物に指定されている原生林を持つ藻岩山と住宅地が接するエリアに辿り着く。この小さな住宅は、そんなまちと森との境界にひっそりと佇んでいる。敷地が前面道路より5mほど低いいため、建物へはブリッジを渡り、2階からアクセスする。ほぼ立方体に近いフォルムを持ち、東側に三角形の外部空間(テラス)が切れ込んでいる。大きなガラス入りの開口をこのテラスと、南東の深い森に面した吹抜け周りにのみ配置し、さまざまな光や、床レベル・天井高さの変化など、コトを起こすきっかけとなる“フツウ”の要素をこの一角に集中させている。単純な形態を持つ空間の中で、こうした要素が重なることで立ち現われる複雑な現象をよりどころに、いつもそこに家族の意識がある住宅を目指した。具体的には、光そのものによる一次的な仕掛けと、視覚や聴覚に訴えかける幾つかの二次的な仕掛けを重ね合わせている。木々の影と強い直接光、四季の色を映し込むア

ルミ壁を経由した間接光、開閉可能な障子を通じた淡い透過光、傾斜した艶ムラのある天井に反射した拡散光が吹抜けを介し、重なりながら建物全体に広がっていく。テラスからは沢のせせらぎや木々のそよ音がメガホン効果により増幅して取り込まれ、角度を変えて向かい合う大きなガラスは森と空を映し込み、虚と実が重なる新しい風景をつくり出す。さまざまな床レベルに腰掛けると、枝で休む鳥の目線で森を見ることができ、地面を這う虫たちの目線で自然と向き合うこともできる。こうした“フツウ”の仕掛けの複合的な組み合わせが、単純な空間の中に複雑な関係性をつくり出す。

重力式自然排水のため、前面道路下にある下水道高さが、水まわりの床レベルを決めている。また、住宅地の縁とはいえ、隣地からの北側斜線制限もかかっているため、天井高や床レベルを自由に設計するには、できるだけブリッジに近い場所に水まわりを納める必要があった。こうして2階に設けられた浴槽は、合板下地にFRP防水を施したもので、裏面には発泡ウレタンが吹き付けられ、高い保温性を持つ。回転する大きな木製断熱窓は、建物に隣接する森の鬱蒼とした枝葉と同じ高さがあり、開け放つとツリーハウスで入浴している感覚を味わうことができる。湯面に反射した光が室内に回り込むのを妨げないよう、水栓類はINAXブランドの壁埋込型シャワーバスセットを使用した。



あかさか・しんいちろう — 建築家 / 1970年生まれ。1993年、北海道大学工学部建築学科卒業。1993-99年、中井仁実建築研究所。2000年、アカサカシンイチロウアトリエ設立。現在、北海道大学、北海道工業大学、北海道芸術デザイン専門学校、CAI現代芸術研究所非常勤講師。主な作品: ギャラリー門馬アネックス[2002]、オジノイエ[2005]、モリノイエ[2006]、オレセンノイエ[2007]など。

1 前面道路から見た北西面外観 | 2 リビング | 3 ダイニングからテラス方向を見る | 4 洗面・浴室[写真4点とも: 酒井広司]



1階平面図 1/300

2階平面図

**建築概要**

名称: フツウノイエ | 所在地: 北海道札幌市 | 家族構成: 夫婦 | 敷地面積: 247.00㎡ | 建築面積: 52.99㎡ | 延床面積: 97.57㎡ | 規模: 地上2階 | 構造: 木造在来工法 | 工期: 2009.11-2010.5 | 設計: アカサカシンイチロウアトリエ | 施工: 橋本川島コーポレーション

● INAX使用商品 | 洗面室 | 洗面器: L-176EC / BW1、水栓金具: LF-280A-GS(ハンドルは取替え) || 浴室 | 水栓金具: BF-214TL

A-A' 断面図 1/300